

ドラマ視聴時の学びは指導によって変えられるか —プロトコル分析による指導効果の検証—¹

張 文麗

1. はじめに

中国では近年、インターネットやメディアの急速な普及により、学習者が教室外で日本製のドラマなどを日常的に見るようになっている(徐 2008)。大量のインプットが習得を促進することは予想されるが、習得が起きるためには、学習者がインプットを理解し、言語項目の形式的特徴に気づく(noticing)ことが必要だとされている(Schmidt 1990)。学習者は、通常中国語字幕付きでドラマを見るため、字幕に頼つてストーリーを楽しむだけで日本語を聞き流してしまい、日本語への気づきが起きないのでないかと、筆者は感じていた。そこで、本研究は、インプットを習得に有効につなげるために、習得を促進するドラマの見方を身に付けることを指導の目標とし、ドラマの意味理解をさせる中で、学習者の気づきを促す活動を導入する。本研究では、気づきを促す指導を 15 週間行い、その前後にプロトコル分析(張 2008)によりドラマ視聴時の学習者の気づきを調べることで、学習者のドラマの見方の変化を検証するものである。研究課題は、「ドラマ視聴時の学びは教室指導によって変えられるか」である。

2. 先行研究

言語項目に気づいたことを口頭報告するのは、アウェアネス(awareness)であり、アウェアネスには、「気づきのレベルにあるアウェアネス (awareness at the level of noticing)」と、「理解のレベルにあるアウェアネス(awareness at the level of understanding)」²の違いがある(Schmidt 1990)。アウェアネスのレベルの違いは、学習効果に差異をもたらすと報告されている(Leow 1997, Rosa & O'Neill 1999 等)。例えば、Rosa & O'Neill (1999)では、問題解決のタスクにおける学習者の発言(プロトコル)を分析し、「文法形式への言及はあるものの、その形式の規則について述べていない」プロトコルを「気づきのレベルにあるアウェアネス」とし、「文法形式の規則に対する

明確に言及した」プロトコルを「理解のレベルにあるアウェアネス」と分類した。その分類に基づき、「理解のレベルにあるアウェアネス」は、「気づきのレベルにあるアウェアネス」より、習得に必要なインテイクを取り込めるとしている。つまり、異なるレベルのアウェアネスが存在し、「理解のレベルにあるアウェアネス」は「気づきのレベルにあるアウェアネス」より習得をもたらすとされている。

3. 研究方法

3.1 調査対象者

調査対象者は、中国の大学で日本語を専攻する 30 人。指導開始時点(2009 年 3 月上旬)での日本語学習歴は 2 年半である。1 年生の時から同じ内容の授業を受けてきた 2 クラスを、実験群(16 人)と統制群(14 人)とする。基本的にはドラマの意味理解を中心とした授業の中で、実験群に対しては、学習者の注意を局所的に言語形式に集め、気づきを促す指導を行う。統制群には、学習者が不利益を被らないように、未習語の推測を促す指導を行うこととした。調査対象者全員が 2008 年 12 月に日本語能力試験 1 級を受けており、今回の発表では、日本語能力試験の成績によって両群から均等にそれぞれ 7 人を抽出し、14 人分のプロトコル・データを扱った。

3.2 指導方法

指導は、NHK が 2002 年と 2004 年に放送した 2 つのドラマを素材とし、2009 年 3 月上旬から 6 月中旬まで 15 週間にわたって、1 回の授業(100 分)で、ドラマ 1 話(15 分)を扱い、両群それぞれ 17 回指導を行った。毎回の指導では、ドラマ 1 話分をシーンごとに分け、稿末資料 1 で示した手順で進めた。①～③は、両群共通で、ドラマの大まかな内容理解を目的とする。④～⑧は両群で異なる。

実験群の学習者は、稿末資料 1 に示した例のようなスクリプトをもらい、言語形式を穴埋めしてから、2 回目の視聴で自分の答えをチェックするとい

う手順で授業を進めた。例えば、資料1の実験群のスクリプト例では、多くの学習者が「覚えている」と空白埋めしたが、これらの学習者は2回目の視聴で「覚えていただけた」というインプットを受けて、この場面状況における「覚えている」と「覚えていただけた」との違いに気づくことが想定される。このように、学習者が言語項目の形式とそれが担う意味・機能との照合を経験すること、言語項目の規則に関する意識的分析を自らすることが、実験群の指導の狙いである。実験群の指導で取り上げた主な言語形式は、[ている][授受表現][指示詞]である。

一方、統制群の学習者は、資料①に示した例のようなスクリプトをもらい、未習語の意味を、前後の文脈や映像から推測し、2回目の視聴で未習語の音を聞き取り、空白に書きいれるという手順で授業を進めた。

3.3 プロトコル・データの収集と分析

指導前と指導後に、それぞれ指導とは別のドラマ(1話15分)を使い、調査者と1対1で即時回想法を用いて、中国語で学習者のドラマ視聴時の学びを調べた。中国語字幕付きのドラマをパソコンで見せながら、10秒~15秒単位で止め、「今頭の中に浮かんだことをどんなことでもいいから全部言ってください」と指示した。

学習者の発話(プロトコル)を文字に起こし、まず、[言語][文化][その他]に3分類した。[言語]は、日本語に関する発話である(稿末資料②のプロトコル例①~⑫)。[文化]は、日本文化に関する発話や中日比較をした発話である(プロトコル例⑬~⑮)³。[その他]は、[言語]と[文化]のどちらにも分類できない、ストーリーの予測や単なる感想等である(プロトコル例⑯)。

[言語]に関するプロトコルは、ドラマのインプットの一部を復唱するものから、インプットを理解したうえで既有知識と比較するものまで、異なるレベルの気づきが見られる。そこで、Rosa & O'Neill (1999) 等の先行研究を参考にし、[言語]に関するプロトコルを[レベルI]と[レベルII]に分類した。インプットに含まれる言語項目を復唱したり、字幕や映像を頼りに意味を推測したりしているが、文法規則や語構成の規則に触れていないプロトコルを、[レベルI]とした(プロトコル例①~③)。一方、インプットを理解した上で、自分の既有知識と比較し

たり、文法規則や語構成の規則について言及したりして、中間言語の再構築が行われていると考えられるプロトコルを、[レベルII]とした(プロトコル例④~⑯)。例えば、プロトコル例④では、「やっぱいたずらか」を復唱しただけでなく、話し言葉における「やっぱり」の発音変化の規則性について述べたものなので、[レベルII]とした。

4 結果

4.1 全体の結果

3.3の分類基準に従い、文字化したプロトコルを分類し、実験群と統制群それぞれの数を表1にまとめた。以下の3点が明らかになった。

- ①[言語]に関するプロトコルは、【統制群】は54から92に、【実験群】は56から130に、共に大幅な増加が見られた。
- ②[言語]のプロトコルの中で、[レベルI]は、両群ともに増えたのに対し、レベルIIは、【統制群】より【実験群】の増加が大きい。
- ③両群とも、指導後には[文化]に関するプロトコルが減った。これはドラマの題材と関係があると考えられる⁴。

表1 全体の結果

時期	I	II	合計	文化		合計
				統制	実験	
統制	22	32	54	52	58	164
	67	25	92	12	49	153
実験	20	36	56	91	58	205
	69	61	130	12	55	197

4.2 学習者2人の結果

[言語]のレベルIIにおいて両群に違いがあるという結果を受けて、[言語]に関するプロトコルについて、さらに詳細に調べた。統制群と実験群から、日本語能力試験の成績が300点と308点の学習者2人(AとB)を抽出し、[言語]のプロトコル数を表2にまとめた。[レベルI]は2人とも増え、[レベルII]は実験群のBのみ増えたという結果は、全体の結果と同様の傾向を示している。

[レベルI]には、未習語「引き抜き」「付き人」「メジャー」「アクトレス」等未習語の意味を推測したプロトコルが多い。つまり、指導を通して2人とも未習語への意味推測が増えたことを示している。

表2 学習者2人の結果

学習者	指導	I	レベルII				
			発音	語彙	文法	語用	合計
A 統制	前	5	0	0	2	3	5
	後	13	1	1	1	0	3
B 実験	前	3	0	0	0	5	5
	後	18	1	6	4	5	16

[レベルII]をさらに「発音」「語彙」「文法」「語用」に分類して集計した結果、実験群のBは、[語彙][文法]のプロトコルの増加が顕著であることが明らかになった。[語彙]のプロトコルは、[レベルI]の語彙と異なり、「向く」「愛想」「戦う」「大女優」「ぼく」等、既習の語彙に関するものである。プロトコル⑤⑥のように、知っている語彙の新しい用法に気づき、既有知識に新たな情報を増やし、中間言語の再構築がなされたものと考えられる。

[文法]のプロトコルは、例⑧のように、すでに知っている言語項目「～出す」について、自分がまだ使えていない、自分が言うなら違う言い方になるだろう、と自分のアウトプットと自然な日本語からのインプットのギャップに気づき、比較したものがある。また、⑦や⑩から「預かる」と「預ける」の違い、「むいていない」と「むいていなかった」の違いについて、学習者が意識的に分析していることが窺える。

5.まとめと今後の課題

本研究では、気づきを促す指導が学習者の学びに与えた影響を、指導前後のプロトコル分析により調べたところ、次の2点が明らかになった。①両群とも、指導前よりインプットの中にある未習語に対して意味推測をするようになった。②実験群は、既有知識との比較、規則に関する意識的分析が、統制群より多く行われるようになった。従って、研究課題「ドラマ視聴時の学びは教室指導によって変えられるか」に対して、「一定程度変えられる」という結果が得られた。つまり、教室指導を通して、「習得を促進するドラマの見方」を身につけることが可能だということを示した。習得を促進するドラマの

見方」を身に付ければ、学習者が教室外でドラマを見る際にも、自らの力で習得を促進できる可能性がある。本研究は、自律的な学習者の育成につながる指導例を教育現場に示唆したと言える。

今後、プロトコルの分類をさらに精緻化とともに、調査対象者全員のプロトコル分析を行い、統計処理を経ることで、より信頼性のある結果を求めて行きたい。

注

- 研究会の発表後に、データに対して再分析を行った。本研究要旨は、発表時と異なる枠組みで分析したため、結果の数値の一部が異なっている。
- 先行研究において用語の定義に不一致がある(小柳 2005)。本稿は、用語の定義に関する検討を行わず、先行研究の用語をそのまま用いることにした。
- [言語]と[文化]のどちらにも分類されるプロトコルについては、[言語]と[文化]それぞれに入れ、1と数えることにした。
- 指導前のドラマは、古い住宅やラーメン屋など、日本文化的要素を含む映像の情報が多い。実際に映像に含まれる情報に関する学習者の発話が多くあった。指導後のドラマは、部屋の中で会話をする場面がほとんどであり、映像の情報が少ない。

参考文献

- 小柳かおる(2005)「言語処理の認知メカニズムと第二言語習得：記憶のシステムから見た手続き的知識の習得過程」『言語文化と日本語教育』2005年11月増刊特集号 12-36
- 徐軍(2008)「日本語学習者のドラマ視聴に関する調査研究：深圳職業技術学院を例に」『日本言語文化研究会論集』4:61-88
- 張文麗(2008)「プロトコル分析は何を明らかにしたか—習得メカニズムを探る研究の概観から—」『言語文化と日本語教育』お茶の水女子大学 2008年11月増刊特集号
- Leow, R. P. (1997). Attention, Awareness, and Foreign Language Behavior. *Language Learning*, 47, 467-505.
- Rosa, E. & O'Neil, M. (1999) Explicitness, intake, and the issue of awareness: Another piece to the puzzle. *Studies in Second Language Acquisition*, 21, 511-556.
- Schmidt, R. W. (1990) The role of consciousness in second language learning. *Applied Linguistics*, 11, 129-158.

ちょう ぶんれい／日本言語文化研究プログラム
(国際交流基金日本語国際センター・政策研究大学院大学連携大学院)

zhangwenli999@yahoo.co.jp

稿末資料1 指導方法

指導の手順	統制群(14人)	実験群(16人)
①理解の質問 ②1回目の視聴 ③質問に答える	(質問例) ・萩原さんは何をしている人ですか。 ・何のために幸子さんの家に来ましたか。	
④スクリプトを配布 ⑤学習者が各自で作業 ⑥隣の人と結果について話し合う ⑦2回目の視聴	(スクリプト例) 父：ただいま。 萩原：ご無沙汰します。 父：うお、ひさしぶりだな。 萩原：覚えていただけたんですか? 父：覚えてるよ。必ず()と()を買っていくいい男だ。	(スクリプト例) 父：ただいま。 萩原：ご無沙汰します。 父：うお、ひさしぶりだな。 萩原：([覚える])なんですか? 父：([覚える])よ。 必ずオカカと鮭を([買う])いい男だ。
⑧事後の作業	「脱サラ」という現象について話し合う。中國と比較する。(理解を深める)	アフレコやスクリプトの読み上げ。(気づきを強化する)

稿末資料2 プロトコル・データの例

		ドラマのスクリプト	プロトコル例(日本語訳は筆者)
言語	レベルI (発音)	店員：はい、お待ち！ 字幕：久等了。	①「おもち、はい、おもち」？
	レベルI (語彙)	かなこ：平気よ、グラビアはセリフなしさ。 字幕：没问题，杂志模特不用说话的。	②「グラビア」？「モデル」の意味？どんな英語？
	レベルI (話用)	ひなこ：うちのター君は～ 字幕：我家老公呀～	③「老公」のことを「ター君」と言っている。
	レベルII (発音)	やっぱいたずらか。	④「やっぱいたずらか」、話し言葉の中で「べつぱり」はよく「やっぱ」になるよね。
レベルII (語彙)	ケイ：やめます。この世界、わたし向いてないと思うんで。 字幕：我要辞职。我不适合干这个工作。	⑤「不适合」はどの単語を使った？「書いてない」？あ、「なになに向き」、「なになに向け」、と同じ意味なんだ。	
		わたし、大女優になりたいの。	⑥日本人は「大」を使いたがるよね、「大好き」のように。
		こうして、わたし、小島遊は、女優紫野美冬の子供を、福岡にある彼女の実家に預けた。	⑦「実家に預けた」、あの女性の実家に送ったということね。「預かる」と「預ける」をよく間違える。
		わたしはこう太郎とつきあいだして2年。売れない脚本家になっている。 字幕：开始交往有2年了。	⑧「开始交往有2年了」は、「付き合いでして2年」。わたしがこの意味を表すなら、「付き合って以来」「付き合ってから」というかもしれない。
レベルII (文法)	雑誌のモデルで終わるなんていやだ。	⑨「なんて」をよく聞くが自分で使えない。わたしがこのことを言うなら、「終わるのはいやだ」になるだろう。	
		ケイ：やめます。この世界、わたし向いてないと思うんで。 (ナレーション) そう、本当に向いてなかったんだと思う。	⑩そのときは「向いてない」と言って、振り返るときには「向いてなかつたんだ」というのか。
		妹：お忙しいのに、いつもご苦労様です。ごゆっくり。	⑪お客様を追い出すのに、このような言い方ができるのね。
		男性：よくお会いしますね。	⑫敬語を使っているね。ドラマでは男性は若い女性に敬語を使っているのはあまり見ないけど。
文化	男性：よくお会いしますね。 女性：2回だけです。	⑬この女性はずいぶん冷たいけど、日本人は知らない人にあまり声をかけないの？	
	一つはですね、ストーカーかもしれませんね。 (ラーメン屋でラーメンを作るシーン)	⑭日本のドラマには「ストーカー」がよく登場する。「ストーカー」が多い印象がある。	
		⑮これが「ラーメン」？「米线」の作り方と似ている。	
その他	(主人公の職場)	⑯彼女の会社は、とても雰囲気がいいと思う	